

## 第3回大町ダム等再編事業 事業監理委員会審議結果

1. 日 時：令和4年6月14日（火） 13：30～14：30
2. 場 所：千曲川河川事務所 2階 大会議室（諏訪委員、山沖委員WEB 参加）
3. 審議結果：
  - （1）大町ダム等再編事業 事業監理委員会 規約改定  
⇒意見無し
  - （2）大町ダム等再編事業の概要  
⇒意見無し
  - （3）第2回事業監理委員会の主なご意見等へ
    - 共通理解に資するように資料-3の4ページにある土砂処理計画の土砂流入の考え方を作成してもらったはずだが、この資料では理解できない。現場での説明では理解できたはずだがそれが反映されていない。
    - 不動沢・濁沢からの土砂流入量は年によってばらつきがあるが、雨量との相関はあるのか教えていただきたい。
    - 千曲川、犀川の流域では、昭和57年、58年、平成7年、10年、16年、18年にも洪水が発生している。実績土砂流入量のデータでは、平成17年が突出しており、雨量と土砂流入量の相関はあまり見てとれない。
    - 大町ダム等再編事業後の土砂搬出量である23万m<sup>3</sup>/年のラインを、実績土砂流入量のグラフに追記すると、目安として見やすいと考える。
  - （4）事業の実施状況について
    - 事業監理という観点から見ると、順調に進んでいるという理解でよいか。
    - 順調に進んでいると考えている。
    - 資料-4の11ページの上の土砂対策施設設計の（4）籠川土砂仮置き施設の詳細設計は予定よりも早く完了しているのか。
    - 早くはなっておらず、予定通りで完了している。
    - 実際にはトンネルを掘らないと分からないことも多いが、空中電磁探査の結果等を踏まえて、今の段階で想定しているリスクや留意事項があれば教えていただきたい。
    - 既存の調査の及ばないところは掘ってみるまで分からないという状況であり、今回の調査結果を今後設計の中に反映させて精査していく。
    - 不確定要素も踏まえて、設計の中で工程計画、施工計画にどこまで反映できるか、今後検討し詰めていきたい。

- 土木研究所と本省技術調査課が地質・地盤リスクマネジメントをとりまとめている。トンネルの中の地盤状況が予想と異なることに対する参考にしていただきたい。
- 長大なトンネルとなるため、文献と地質、既存の調査結果、空中電磁の探査結果等を踏まえて、不確定要素を1つずつ確認しながら、リスク管理、あるいは工程やコストも含めて、しっかりと進捗管理をしながら進めていく。
  
- 令和4年度の実施予定の内容で、土砂輸送用トンネルの工事に入るということでよいか。
- トンネルの工事に着手するのであれば、地元の大町市とも連携しながら、住民への説明をしっかりとっていただきたい。
- 今年度、トンネルにつきましては工事着手を予定している。
- 地元住民への説明は、分かりやすい丁寧な説明を行う。
  
- トンネル工事関係で、実際に掘ってみた状況に応じて、ルートを変える等の対応策を考えているのか教えていただきたい。また、対応が難しい場合は事業費を増やすということを考えるのか。
- 予測を立てられるものは可能な限り行い事前に対応する。変更への対応が大きくならないような対応を行っていく。
- 事業費については、全体で約360億円としているが、これはトンネルの掘削工事だけではなく、様々な工事と合わせての全体の事業費を考えている。そのため、工事の進捗に応じて事業費を精査しながら、コストの管理についてもしっかりと対応していく。